

第2次豊橋市産業戦略プランの  
取り組みについて

2021年12月

豊橋市

## 目 次

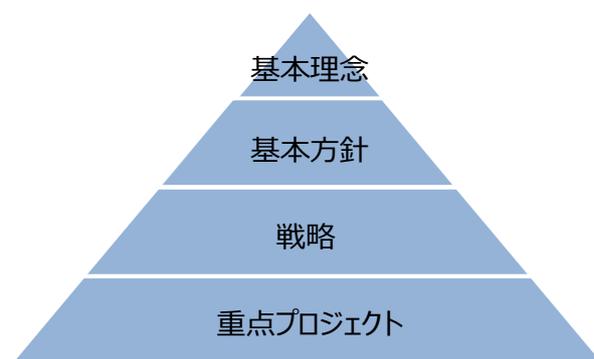
1. 第2次豊橋市産業戦略プランの概要	3
(1) 構成	3
(2) 位置付け	3
(3) 計画期間の見直し	4
2. 第2次豊橋市産業戦略プランの施策体系	5
3. 第2次豊橋市産業戦略プランの取り組みについて	6
4. 4つの目標指標の達成状況について	7
5. 6つの戦略の取組状況について	10
参考. 新型コロナウイルス感染症で影響を受けた事業者に対する主な取り組み	35

## 1. 第2次豊橋市産業戦略プランの概要

第2次豊橋市産業戦略プランは、農業・工業・商業、サービス業等のあらゆる産業を発展させるため、本市産業政策の基本的な考え方と戦略を明らかにするものです。

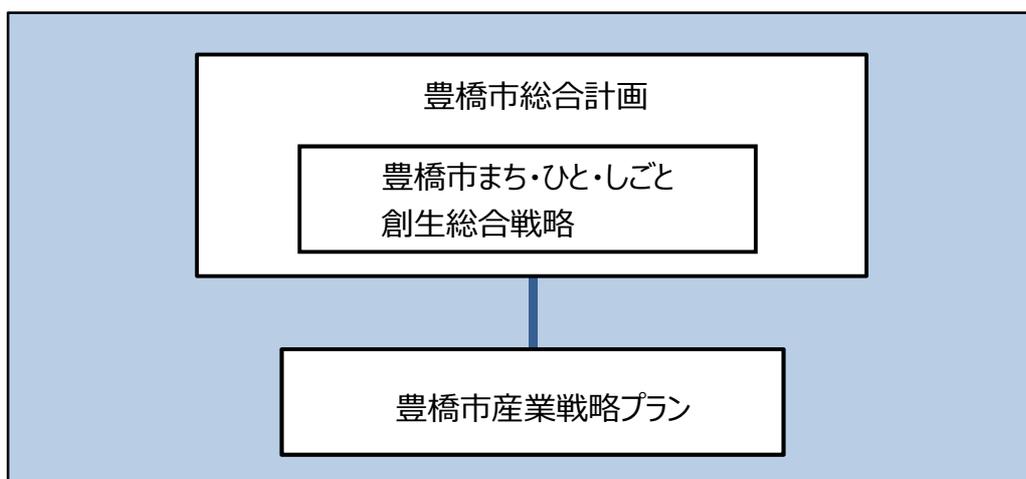
### (1) 構成

第2次豊橋市産業戦略プランは、基本理念、基本方針、戦略及び重点プロジェクトで構成されています。基本理念に基づき本市が目指す産業の姿を実現するために、基本方針と戦略、具体的な事業計画である重点プロジェクトを掲げています。



### (2) 位置付け

第2次豊橋市産業戦略プランは、豊橋市総合計画と連動しており、産業振興の実践計画として位置付けられるものです。また、豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略とも連携しながら重点的に実施する施策を掲げるものです。

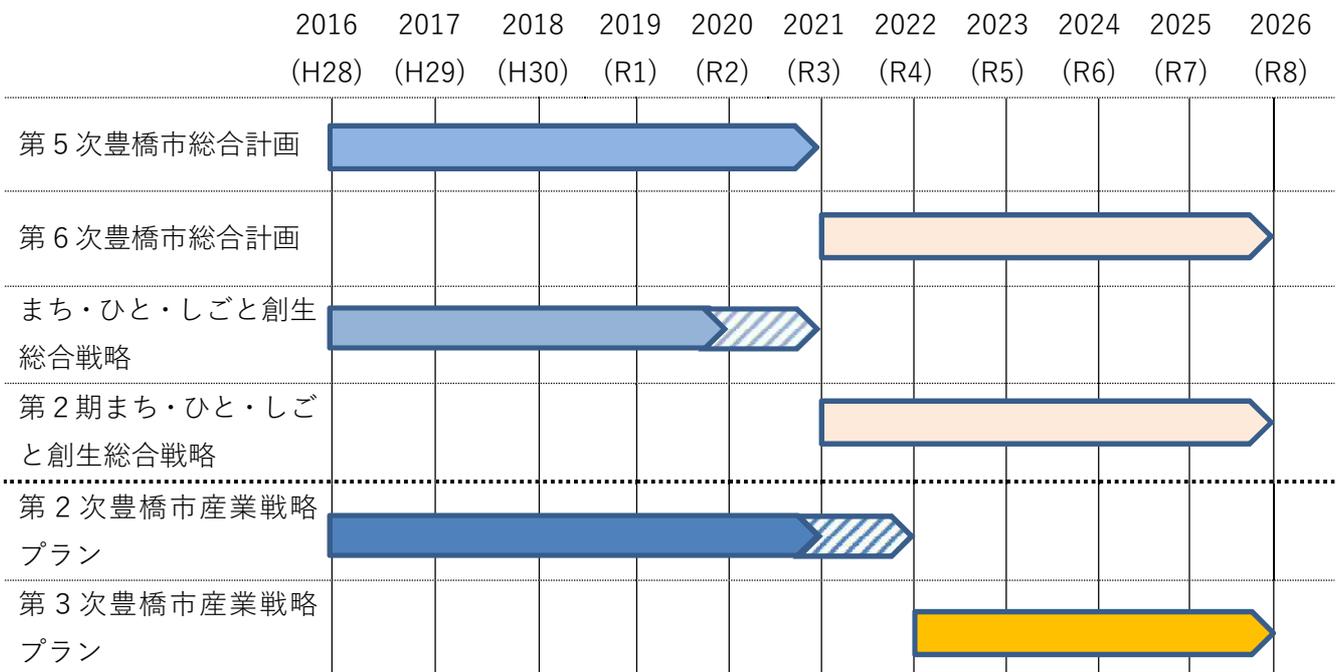


### (3) 計画期間の見直し

第2次豊橋市産業戦略プランとその上位計画である「第5次豊橋市総合計画」は、ともに2020（令和2）年度末をもって計画期間が終了となる予定でした。2021（令和3）年度からは、新たなまちづくりの目標と政策体系による「第6次豊橋市総合計画」がスタートすることになり、これとあわせて産業戦略プランも第3次豊橋市産業戦略プランの策定に向けて作業を進めていく予定でした。

しかし、新型コロナウイルス感染症が社会全体に与える影響は計り知れず、収束時期や将来的な影響についても不透明な状況であり、アフターコロナ社会に向けた取り組みを第3次豊橋市産業戦略プランに反映するための検討・議論を進めるため、策定期間を延期し、第2次豊橋市産業戦略プランの計画期間を1年間延長することとしています。

〈計画期間の見直しと第3次豊橋市産業戦略プラン策定までの期間における取り組みのイメージ〉（年度）



2. 第2次豊橋市産業戦略プランの施策体系

4つの全体目標を実現するために6つの戦略と12の重点プロジェクトを掲げ、プロジェクトごとの目標指標を設定しています。

基本理念	基本方針	4つの全体目標	6つの戦略	重点プロジェクト	主な取り組み
活力と魅力を発信する  産業のまち「とよはし」	1 新産業の創出  2 産業集積の促進  3 事業者の経営力強化	1 雇用増加数  2 地域の中心となる農業経営体の数  3 新規創業者数  4 産業用地における立地企業数	1 イノベーション戦略	イノベーション創出プロジェクト	○ものづくり研究開発の促進 ○先端産業や環境関連産業の創出支援 ○商業・サービス業の新事業創出支援
				創業（起業）促進プロジェクト	○「とよはし創業プラットフォーム」によるサポート ○産学官金連携による創業支援
			2 農工商連携戦略	農産物ブランド化推進プロジェクト	○次世代ブランド農産物の開発支援 ○農産物や加工食品の表示認証への支援 ○地域連携による栽培モデルの構築 ○農産物プロモーションの促進
				地域食農産業活性化プロジェクト	○畜産クラスターによる畜産農家の収益性向上 ○食農産業クラスターの推進 ○道の駅を活用した豊橋産農産物の情報発信 ○地産地消活動の推進 ○食農教育の推進
				先端農業技術普及促進プロジェクト	○先端農業技術の普及支援
			3 産業集積戦略	産業集積促進プロジェクト	○産業用地の確保 ○企業誘致活動の推進 ○中核となる企業の市場拡大等の取り組みの推進 ○三河港ロジスティクス戦略の推進 ○BCP 策定の支援
				農業生産基盤強化プロジェクト	○農地集積の推進 ○農業生産基盤の強化 ○強い農業づくりの推進 ○有害鳥獣駆除の担い手確保
			4 人材確保・育成戦略	人材確保プロジェクト	○UIJ ターンの促進 ○人材確保の支援
				人材育成プロジェクト	○ものづくり人材等の育成 ○先端農業人材育成の支援 ○農業後継者の育成 ○女性農業者の支援
			5 グローバル戦略	グローバル展開プロジェクト	○農産物海外販路開拓の推進 ○加工食品海外販路開拓の推進 ○製造業等の海外展開の支援
				施設園芸技術輸出プロジェクト	○先端技術の輸出推進
			6 交流戦略	誘客・誘致推進プロジェクト	○インバウンドの推進 ○観光資源の魅力向上

### 3. 第2次豊橋市産業戦略プランの取り組みについて

第2次豊橋市産業戦略プランは、少子高齢化の進展による人口減少社会のもと、働く場所を増やし、地域経済を活性化させるため、産業振興による質の高い雇用の創出が重要であるとの基本認識に立ち、本市事業者の大多数を占める中小事業者や農業者の経営基盤強化を支援するとともに、地域産業の活性化に取り組んできました。

計画期間中は、リーマンショックや東日本大震災の影響からの回復、インバウンド需要の増加といった状況の下、第2次豊橋市産業戦略プランによって定められた戦略及びそれに基づくプロジェクトによる取り組みを進め、全体の目標である『雇用増加数』、『地域の中心となる農業経営体の数』、『新規創業者数』、『産業用地における立地企業数』をはじめとした各種指標において、一定の成果を挙げることができています。

#### 【4つの全体目標の達成状況】

目標名	基準値（2014年度）	目標値（2021年度）	達成状況（2020年度）
雇用増加数	2,305人	2,500人	661人
地域の中心となる農業経営体の数	228経営体	500経営体	414経営体
新規創業者数	122人	1,200人	1,167人
産業用地における立地企業数	36社	47社	47社

一方で、本市の産業をとりまく現状は、人口減少や後継者不足といった課題がより深刻化するとともに、2020（令和2）年度に入ってから新型コロナウイルス感染症拡大による影響が本格化したことにより、雇用の増加数や市内の宿泊者数が大きく減少するなど、非常に大きな影響を受けることとなりました。新型コロナウイルス感染症の収束時期は依然として不透明であるとともに、収束後においても従前と全く同じ生活様式に戻る可能性は低く、新しい生活様式に恒常的に対応していくことが求められていくと考えられます。

そこで、今後は生産性の向上や新たな働き方や担い手の確保を進めながら、いち早く新型コロナウイルス感染症による影響を克服し、アフターコロナにおける社会に適応できる強靱な産業としていくため、新たな産業戦略プランのもとで、本市産業の回復を、そしてさらなる成長を図っていく必要があります。

次ページ以降では、第2次豊橋市産業戦略プランに基づく指標の実績や取り組みの成果などの具体的な内容をまとめています。

## 4. 4つの目標指標の達成状況について

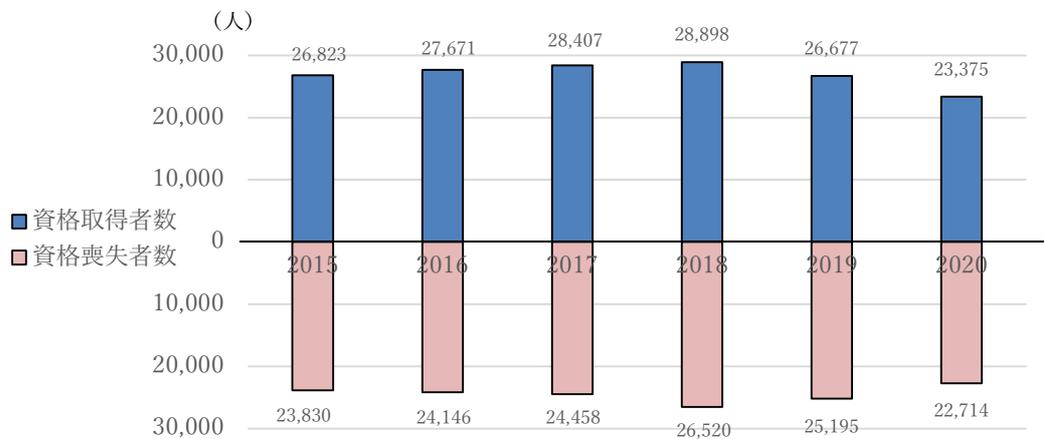
### ■目標1：雇用増加数※

※雇用保険被保険者数の取得数と喪失数の差

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
雇用増加数	2,305人	2,993人	3,525人	3,949人	2,378人	1,482人	661人	2,500人



### 【別図：雇用保険資格取得者数及び資格喪失者数の推移】

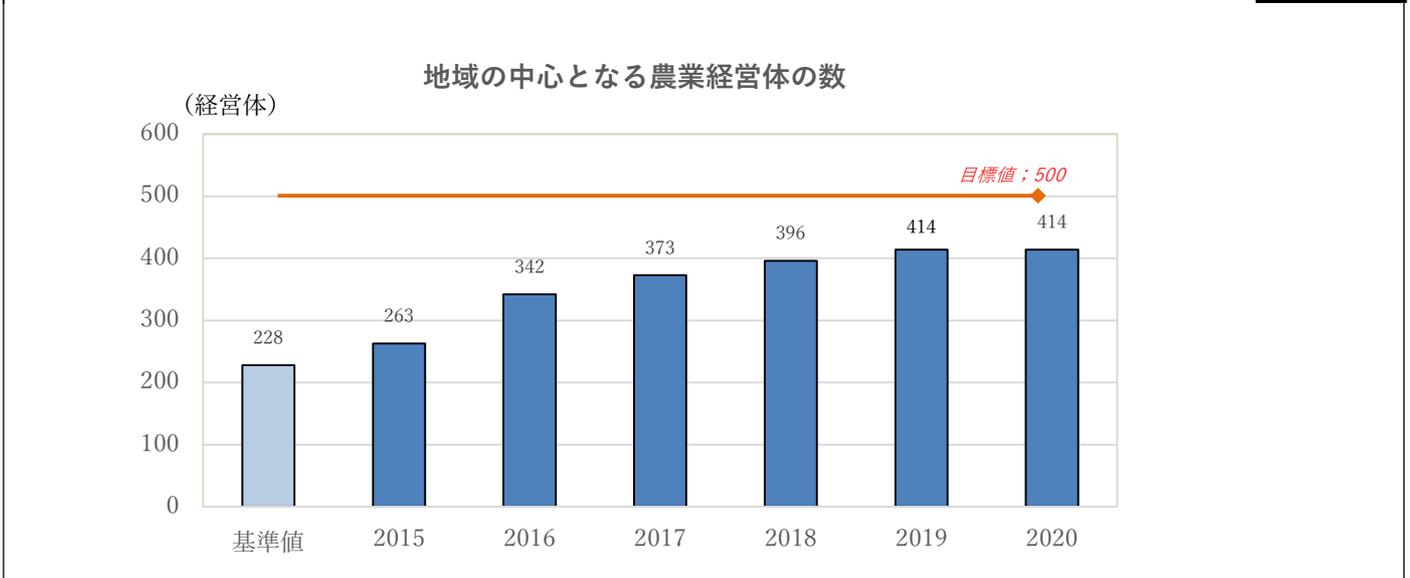


出典：豊橋公共職業安定所 業務年報

雇用増加数は、雇用保険適用範囲の拡大により急増した高齢労働者が退職した影響から減少に転じています。雇用保険資格取得者数自体は、就業促進事業等の人材確保の取り組みや求人需要の高まりを受けて増加（別図：雇用保険資格取得者数及び資格喪失者数の推移を参照）していましたが、消費税の増税や新型コロナウイルス感染症の影響により減少しています。

### ■目標 2：地域の中心となる農業経営体の数

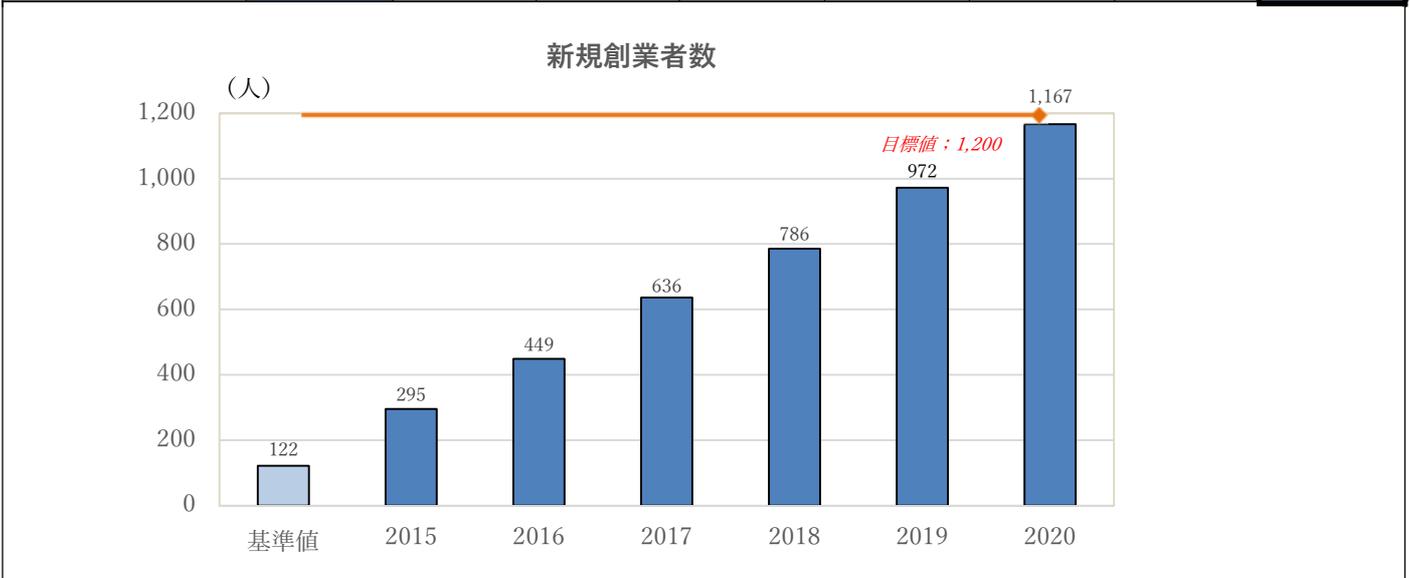
指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
地域の中心となる農業経営体の数(累計)	228 経営体	263 経営体	342 経営体	373 経営体	396 経営体	414 経営体	414 経営体	500 経営体



地域の中心となる農業経営体の数は、就農支援による農業人材の確保や農業経営の安定化等の取り組みにより、概ね増加を続けています。

### ■目標 3：新規創業者数

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
新規創業者数(累計)	122 人	295 人	449 人	636 人	786 人	972 人	1,167 人	1,200 人



新規創業者数は、創業しやすい環境づくりの取り組みにより、順調に増加を続けています。

## ■目標4：産業用地における立地企業数

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
産業用地における立地企業数(累計)	36社	36社	39社	41社	43社	45社	47社	47社

産業用地における立地企業数



産業用地における立地企業数は、企業立地支援策の拡充や規制緩和、東三河5市と連携した誘致活動等の取り組みにより増加を続けています。

## 5. 6つの戦略の取組状況について

現行プランは、「新産業の創出」「産業集積の促進」「事業者の経営力強化」という3つの基本方針を掲げるとともに、4つの全体目標を定め、その目標を達成するために実践的な6つの戦略を定めています。

ここでは、6つの戦略に掲げた重点プロジェクトと36の具体的な取り組みを示すとともに、各戦略の目標指標の分析と課題整理をしました。

### ■取り組みの進捗状況※

項目		計画どおり		概ね計画どおり		遅れている		
<b>1</b>	<b>イノベーション戦略</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>40.0%</b>	<b>2</b>	<b>40.0%</b>	<b>1</b>	<b>20.0%</b>
	イノベーション創出プロジェクト	3	0	0.0%	2	66.7%	1	33.3%
	創業（起業）促進プロジェクト	2	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
<b>2</b>	<b>農工商連携戦略</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>0.0%</b>	<b>4</b>	<b>80.0%</b>	<b>1</b>	<b>20.0%</b>
	農産物ブランド化推進プロジェクト	2	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%
	地域食農産業活性化プロジェクト	2	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%
	先端農業技術普及促進プロジェクト	1	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%
<b>3</b>	<b>産業集積戦略</b>	<b>6</b>	<b>2</b>	<b>33.3%</b>	<b>3</b>	<b>50.0%</b>	<b>1</b>	<b>16.7%</b>
	産業集積促進プロジェクト	3	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%
	農業生産基盤強化プロジェクト	3	2	66.7%	0	0.0%	1	33.3%
<b>4</b>	<b>人材確保・育成戦略</b>	<b>6</b>	<b>2</b>	<b>33.3%</b>	<b>3</b>	<b>50.0%</b>	<b>1</b>	<b>16.7%</b>
	人材確保プロジェクト	2	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%
	人材育成プロジェクト	4	1	25.0%	3	75.0%	0	0.0%
<b>5</b>	<b>グローバル戦略</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>25.0%</b>	<b>2</b>	<b>50.0%</b>	<b>1</b>	<b>25.0%</b>
	グローバル展開プロジェクト	3	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%
	施設園芸技術輸出プロジェクト	1	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
<b>6</b>	<b>交流戦略</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0.0%</b>	<b>1</b>	<b>100.0%</b>	<b>0</b>	<b>0.0%</b>
	誘客・誘致推進プロジェクト	1	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%
<b>合計</b>		<b>27</b>	<b>7</b>	<b>25.9%</b>	<b>15</b>	<b>55.6%</b>	<b>5</b>	<b>18.5%</b>

※ 関連する目標指標が設定されていない取り組みについては、集計外としています。

## ■イノベーション創出プロジェクト

イノベーション創出プロジェクトでは、多様な事業者の交流・連携による新商品開発や新事業創出に取り組んだほか、個店の実施する魅力向上を図るための環境整備への支援を実施しました。

「ものづくり研究開発の促進」、「先端産業や環境関連産業の創出支援」については、着実な目標指標の進捗を図ることができ、新規創業者数の増加にもつなげることができました。

一方で、「商業・サービス業の新事業創出支援」については、当初の目標の達成をすることはできない見込みです。制度の見直しを図ることで、目標指標の改善を図ることができたことから、中小企業者の新事業創出に関するニーズを正確に把握するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、時期に応じた確かな制度を展開していく必要があります。

### ものづくり研究開発の促進 【進捗状況：概ね計画通り】

#### 計画期間における具体的な取り組み

豊橋イノベーションガーデン（メイカーズ・ラボとよはし、Startup Garage、アグリフード・ラボ）を整備し、同施設のイノベーション創出機能を活用することで、多様な事業者が集うなかで交流・連携を促進し、新商品開発等に取り組みました。

#### 関連する目標指標の達成状況

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
新産業創出関連事業参加者数※	4,609人	4,973人	6,107人	7,751人	12,673人	13,548人	9,954人	13,000人

#### 成果など

豊橋イノベーションガーデンの整備により、創業・ものづくりの裾野を広げる活動は着実に成果を上げることができました。

一方で、2020（令和2）年度は新型コロナウイルス感染症による影響もあり、メイカーズ・ラボとよはしやStartup Garageの利用やイベント開催などに支障があったことなどから、参加者数が大きく減少することとなりました。

優秀な人材の確保と定期的な機器の更新を図ることにより、豊橋イノベーションガーデンの魅力を維持向上させるとともに、新型コロナウイルス感染症対策として取り組み始めているオンラインでのイベント開催等を増やしていくなど、柔軟な体制を整えていく必要があります。

※ メイカーズ・ラボとよはし、ビジネスプランコンテスト等の参加者数

**先端産業や環境関連産業の創出支援 【進捗状況：概ね計画通り】**

**計画期間における具体的な取り組み**

(株)サイエンス・クリエイトが実施している市内企業と大学等の研究機関による研究開発や、本市産業に特に寄与すると認められる分野の研究開発への支援等を行い、本市産業の高度化を図りました。

**関連する目標指標の達成状況**

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
研究開発に対する支援件数※	12件	10件	10件	11件	14件	9件	9件	15件

**成果など**

豊橋イノベーションガーデンの整備により、研究開発に対する支援件数の実績を順調に伸ばすことができました。なお、支援件数が減少している年度もありますが、競争率を高めて事業効果が高い案件への支援を充実させたことによるものと考えられます。

今後も、産学官金の連携により本市の企業の研究開発を支援し、産業振興に繋げていくことが重要であると考えられます。

※ 大学等研究機関と企業の共同研究に対して補助するイノベーション創出等支援事業費補助金の支援件数

**商業・サービス業の新事業創出支援 【進捗状況：遅れている】**

**計画期間における具体的な取り組み**

個店が実施する店舗リフォームやインターネットショップの開設等を支援するため、「がんばる個店応援事業補助金」を創設しました。また、補助金の利用を促すため、店舗リフォームの補助率の嵩上げや補助対象の拡充を実施しました。

**関連する目標指標の達成状況**

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
商業者のインターネットショップ開設等に対する支援件数（累計）	—	—	0件	0件	0件	1件	2件	50件
商業店舗リフォームに対する支援件数（累計）	—	—	0件	1件	1件	5件	14件	50件

**成果など**

商業・サービス業への支援については、補助対象を拡充する等の補助制度の利用促進に努めたものの、目標の達成は困難な状況です。

しかし、補助対象要件の緩和（営業実績年数など）を行うことで実績が伸びたことから、中小企業者のニーズや実情を正確に把握し、より利用しやすい制度へと拡充を図っていくことで、中小企業者の新たな事業創出につなげていく余地が十分にあると考えられます。

また、新型コロナウイルス感染症により対面での販売が困難なケースに見舞われるなか、新たな業態を模索しようとする中小企業者の支援が、引き続き必要と考えられます。

## ■創業（起業）促進プロジェクト

創業（起業）促進プロジェクトでは、本市のほかに関係する機関が連携を図るとともに、創業しやすい環境の整備や創業に係る経費等を支援することにより、創業（起業）促進に努めました。

『「とよはし創業プラットフォーム」によるサポート』、「産学官金連携による創業支援」について、目標を達成することができ、本市における創業（起業）を活性化させることができました。

今後は、新型コロナウイルス感染症の影響を追い風に変えるとともに、若年層の創業（起業）機運の醸成を進めるなど、創業（起業）の流れをより加速させていく必要があります。

・「とよはし創業プラットフォーム」によるサポート  
 ・産学官金連携による創業支援 【進捗状況：計画通り】

### 計画期間における具体的な取り組み

プラットフォーム参画機関（市、豊橋商工会議所、地元金融機関、㈱サイエンス・クリエイト）が連携し、窓口相談、創業塾の開催及びインキュベーション事業を実施し、創業希望者が挑戦しやすい環境を整備しました。

また、創業者支援事業費補助金及び起業支援事業費補助金により、事務所等の家賃、設備・備品購入等に係る経費に対して支援しました。また、補助対象業種の追加等の補助制度の充実を図りました。

### 関連する目標指標の達成状況

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
とよはし創業プラットフォームの利用者数※（累計）	1,115人	2,671人	4,098人	5,875人	7,730人	10,132人	12,849人	7,200人
創業に係る制度融資の利用者数	37人	28人	13人	21人	33人	51人	46人	45人
女性の新規創業者数（累計）	-	29人	55人	92人	121人	146人	195人	90人

### 成果など

創業（起業）環境の充実により、創業（起業）促進の取り組みは成果が上がっており、とよはし創業プラットフォームの利用者数及び女性の新規創業者数は、目標を大きく超えました。

創業者支援事業費補助金及び起業支援事業費補助金については、補助対象業種の拡大など、創業（起業）者が利用しやすい制度としていきました。これにより、制度融資の利用者数、女性の新規創業者数の増加へとつなげることができました。

今後、とよはし創業プラットフォーム参画機関に加え、愛知県による支援拠点や大学などともさらに連携を深め、それらが有機的に連携する体制を構築していく必要があります。

※ とよはし創業プラットフォームの相談窓口の利用者数

## ■農産物ブランド化推進プロジェクト

農産物ブランド化推進プロジェクトでは、農産物の付加価値の向上や首都圏等でのプロモーション活動に取り組み、農産物のブランド力強化に努めました。

「次世代ブランド農産物の開発支援」、「地域連携による栽培モデルの構築」、「農産物や加工食品の表示認証への支援」、「農産物プロモーションの促進」のいずれについても、着実に取り組みを進め、一定の成果を生むことが出来ています。

一方で、「農産物プロモーションの促進」については、2020（令和2）年度に新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、プロモーション活動を十分に実施することが出来ませんでした。今後もプロモーション活動を行っていくことは必要ですが、感染症が拡大しても実施できるようなプロモーション活動の在り方について検討を進めていく必要があります。

・次世代ブランド農産物の開発支援

・地域連携による栽培モデルの構築

### 計画期間における具体的な取り組み

農業団体が主体となって取り組む、商標登録や種苗登録、機能性分析等による新たな商品づくりを支援しました。

また、ミニトマト周年出荷体制の調査及び構築に取り組みました。

### 成果など

ミニトマト周年出荷の調査として経営シミュレーションを行い、必要条件と考えられる法人化や外国人労働者の雇用等の参加農家の体制整備が進みました。

**農産物や加工食品の表示認証への支援 【進捗状況：概ね計画どおり】**

計画期間における具体的な取り組み								
東三河地域で生産される農産物や加工食品の機能性などを検査し認定する表示制度の導入支援に取り組みました。								
関連する目標指標の達成状況								
指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
農産物や加工食品の表示認証取得支援件数※ (累計)	-	-	-	-	7件	9件	9件	10件
成果など								
<p>表示認証取得に対する支援については、食品表示支援機関設置を支援する等の取り組みを進め、HACCP等の認証取得にチャレンジする事業者の掘り起こしができました。</p> <p>これにより、付加価値向上による本市農産物や食品の競争力向上につなげることができました。ブランド化への流れを止めないため、HACCP等の取得に向けた意識啓発を継続していく必要があります。</p>								

※ 機能性表示や地理的表示等の表示認証取得の支援件数

**農産物プロモーションの促進 【進捗状況：概ね計画どおり】**

計画期間における具体的な取り組み								
広告媒体や日本野菜ソムリエ協会の活用、交通会館マルシェにおける販売PRを通して、豊橋産農産物のPRを図りました。								
関連する目標指標の達成状況								
指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
大都市圏等でのプロモーション実施件数	46回	57回	61回	85回	85回	83回	9回	70回
成果など								
<p>大都市圏等でのプロモーション実施件数については、豊橋産農産物PRへの取り組みを積極的に続け、目標を概ね達成することができ、豊橋産農産物の認知度やブランド価値の向上につなげることができました。</p> <p>一方、新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受けることとなったため、一時的な需要拡大ではなく、安定した需要拡大の方法を検討するほか、新たなプロモーションのあり方を研究していく必要があります。</p>								

## ■地域食農産業活性化プロジェクト

地域食農産業活性化プロジェクトでは、農工商連携による取り組みを推進するとともに、地産地消や食農教育の推進に取り組み、豊橋産農産物の消費拡大に努めました。

「食農産業クラスターの推進」、「道の駅を活用した豊橋産農産物の情報発信」、「地産地消活動の推進」「食農教育の推進」については、概ね計画通りに進めることができましたが、「畜産クラスターによる畜産農家の収益性向上」については目標達成が困難な状況となっています。

食農産業を活性化させることにより、本市の農業の振興、市内外への魅力発信、市内への誘客へとさまざまな波及効果を生み出すことが可能になると考えられます。引き続き、食と農を切り口として多様で魅力的なサービスを生み出していく取り組みが必要となってきます。

畜産クラスターによる畜産農家の収益性向上 【進捗状況：遅れている】								
計画期間における具体的な取り組み								
生産から販売まで地域の畜産の収益力強化に向けた取り組みを関係者が一体で進めるため、食品流通、加工業者と連携した販売促進活動や畜産物の生産量確保に向けた施設整備といった畜産クラスター協議会が行う地域の畜産収益力強化に向けた活動への支援に取り組みました。								
関連する目標指標の達成状況								
指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
豊橋地域畜産クラスター協議会の取組件数（累計）	－	0件	1件	1件	2件	2件	2件	10件
成果など								
食品流通、加工業者と連携した販売促進活動や畜産物の生産量確保に向けた施設整備の支援に取り組みましたが、豊橋地域畜産クラスター協議会の取組件数（累計）としては、目標達成は困難な見込みです。 しかし、TPP の影響など畜産を取り巻く経営環境を踏まえ、地域の畜産業の強化のための取り組みを継続していく必要があると考えられます。								

食農産業クラスターの推進								
計画期間における具体的な取り組み								
食品流通、加工業者と連携した販売促進活動の支援に取り組みました。								
成果など								
フードシステムを川上から川下まで地域で構築することを目指すローカルバリューチェーン戦略のもと、地元特産物である大葉を活用した新商品の開発や、「女性によるフードビジネス起業検討会」を実施し、農家の女性を中心とした「合同会社彩えんずキッチン」の立ち上げや商品開発等への支援を行うことで、本市の食農産業の活性化を図りました。								

**道の駅を活用した豊橋産農産物の情報発信 【進捗状況：概ね計画どおり】**

**計画期間における具体的な取り組み**

豊橋初の道の駅を整備し、豊橋産農産物等を活用した特産品の開発や情報発信に取り組みました。

**関連する目標指標の達成状況**

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
あぐりパーク食彩村(道の駅)の来場者数	464,585人	476,903人	468,315人	450,591人	385,895人	555,288人	637,430人	700,000人

**成果など**

あぐりパーク食彩村の来場者数は、道の駅整備に係る工事や食彩村のリニューアル工事等の影響により一時減少しましたが、道の駅開駅後は大きく増加しており、着実に成果が出ています。

今後は、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、人の移動のあり方がこれまでと変わる可能性もありますが、これを一つの契機ととらえ、道の駅の持続的経営や活用方法について検討し、食と農を切り口とした多様で魅力的なサービスをこれまで以上に提供していけるようにする必要があります。

**・地産地消活動の推進**

**・食農教育の推進**

**計画期間における具体的な取り組み**

豊橋産農産物等を活用した料理教室の実施や社員食堂等への豊橋産農産物の提供などを実施しました。また、食農教育を推進するため、農業体験講座やふるさと農業講座などを実施しました。

**成果など**

豊橋産農産物を選んでもらえるように継続的な意識啓発が必要です。また、実施内容やスケジュール等事業者のニーズにあった手法の検討が必要です。

## ■先端農業技術普及促進プロジェクト

次世代施設園芸実証拠点の整備・運営への支援や先端農業技術の普及促進に努めました。

「先端農業技術の普及支援」については、目標指標の達成まであと一歩という状況でしたが、産地競争力の向上や、本市農業者の経営安定に向けて着実に成果につなげることができました。

今後も、本市産業の強みの一つである農業を発展させるため、引き続き先進的な取り組みを促進していく必要があります。

先端農業技術の普及支援 【進捗状況：概ね計画どおり】								
計画期間における具体的な取り組み								
次世代施設園芸実証拠点の整備・運営や先端農業技術の普及に対する支援を実施しました。また、高度な環境制御技術等を活用した施設園芸の普及促進に取り組みました。そして、栽培方法や設備等に関する先端技術の実証及び地域への普及に対する支援を実施しました。								
関連する目標指標の達成状況								
指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
新規に整備された複合型環境制御機能を備えた園芸施設に対する支援件数（累計）	—	—	4件	12件	19件	23件	24件	30件
成果など								
経営規模の拡大や生産性の向上を図るための設備投資や施設園芸の高度化などが促進され、先端農業技術の普及支援について着実に実績を伸ばすことができました。								
今後も引き続き、産地競争力を向上させるとともに、様々なかたちで先進的な取り組みの成果を本市農業者に還元していくことにより、先端農業技術の普及促進及び先端農業技術者の育成を一層進めていく必要があります。								

■産業集積促進プロジェクト

産業集積促進プロジェクトでは、新たな産業用地の整備や企業誘致、三河港の利用促進に取り組み、産業集積の促進に努めました。

「産業用地の確保」、「企業誘致活動の推進」、「中核となる企業の市場拡大等の取り組みの推進」、「三河港ロジスティクス戦略の推進」、「BCP 策定の支援」について、概ね計画通りに進捗するなど、産業集積の促進について着実な成果へとつなげ、産業用地への企業進出につなげることもできました。

産業発展に欠かすことができない産業の集積の動きを止めないため、引き続き企業のニーズの把握に努め、地域産業の競争力を向上させていくことが重要です。

産業用地の確保 【進捗状況：概ね計画どおり】

計画期間における具体的な取り組み

三弥地区等の国道23号バイパス沿線において、新たな工業用地の開発検討、用地買収及び造成工事を進めました。また、三河港臨海部の埋立てによる産業用地(ふ頭用地)確保のため、要望活動を実施しました。

関連する目標指標の達成状況

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
新たな産業用地の整備着手面積(累計)	-	-	-	-	17ha	17ha	26ha	40ha

成果など

新たな産業用地の整備については、用地交渉や地元調整などに当初の見込みよりも時間を要したために目標の達成は困難ですが、三弥地区での開発に着手できたことに加え、東細谷地区においても開発を進めることができている。

開発を進めている産業用地は交通アクセスが良好なことからも、製造業に加え物流業などの事業者が進出を進めることが考えられ、工業用地の不足に備え、新たな工業用地の整備についても検討を進めていく必要があります。

## 企業誘致活動の推進 【進捗状況：概ね計画どおり】

### 計画期間における具体的な取り組み

企業立地促進奨励金制度の拡充や工場立地法の緑地率の緩和、テナントオフィス誘致補助金の創設等の企業誘致の取り組みを進めました。また、三河港臨海部へインポーターが進出する際の輸入自動車の取扱いに対する助成金制度を創設しました。

### 関連する目標指標の達成状況

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
テナントオフィス誘致補助金の支援件数※（累計）	－	1社	3社	5社	7社	7社	7社	15社

### 成果など

テナントオフィス誘致補助金は、実績は伸びているものの目標の達成は困難な状況です。実績が頭打ちになっていることや、新型コロナウイルス感染症の影響により「新しい働き方」が求められている状況などを踏まえ、企業ニーズや時代の流れを的確にとらえた新しい取り組みを進めていく必要があります。

また、立地企業の流出防止のため、企業立地促進奨励金制度の拡充や工場立地法の緑地率の緩和といった本市での企業活動を後押しする取り組みを進めましたが、企業との情報交換や企業訪問を通じた課題や要望などの聞き取りなど地道な取り組みも組み合わせつつ、有効な施策展開につなげる必要があります。

※ 市外企業が新たに本市へ立地する場合に事務所等の賃借料の一部を補助するテナントオフィス誘致補助金の支援件数

## 中核となる企業の市場拡大等の取り組みの推進

### 計画期間における具体的な取り組み

「香港 Food Expo」への出展や市内事業者の海外展示会等への出展支援による加工食品の海外販路開拓・拡大の推進に取り組みました。

### 成果など

香港の展示会に市内事業者とともに出展したほか、市内事業者グループの海外進出を促進するなど、市内事業者の輸出に対するハードルを下げることができ、海外販路開拓の意欲を高めることができました。

また、より多くの市内企業の海外進出を図るうえで、5社以上のグループによる共同出展を促す仕組みとするなど、効果的かつ効率的な取り組みとなるよう努めました。

## 三河港ロジスティクス戦略の推進 【進捗状況：概ね計画どおり】

### 計画期間における具体的な取り組み

新たに三河港でコンテナ貨物の輸出入を開始した企業に対し、助成金の交付を実施しました。また「国際自動車トレード特区」の認定を受け、回送業務の効率化を図りました。

### 関連する目標指標の達成状況

指標名	基準値	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	目標値
完成輸入自動車の取扱台数	186,988台	182,605台	179,115台	189,969台	206,051台	203,050台	160,933台	200,000台

### 成果など

完成輸入自動車の取扱台数は、28年連続で日本一を記録するとともに、2018（平成30）年、2019（令和元）年と目標を達成しましたが、2020（令和2）年はコロナ禍の影響により目標を達成できませんでした。

コンテナ貨物の助成金は、荷主企業が他港からの切り替えを含め三河港の利用促進につながっていることから、他港にも同様の制度が存在することを踏まえ、より選ばれる港へ差別化していくための制度の見直しが必要であると考えられます。

## BCP 策定の支援

### 計画期間における具体的な取り組み

豊橋商工会議所との共催によるBCPセミナー等の開催や中小企業のBCP策定への支援に取り組みました。

### 成果など

BCP策定に関する支援については、セミナーなどへの参加や補助金の交付を通じて中小企業の経営力及び競争力の底上げを図ることにつながり、一定の成果が見られました。

一方で、BCPに関するノウハウ、人材、資金等の不足により対策を講じることが難しい中小企業がまだまだ多いため、BCPよりも策定が容易な事業継続力強化計画策定に対する支援を開始するなど、中小企業のBCP策定へのハードルを下げる取り組みを進めました。

今後は、新型コロナウイルス感染症など新たな事業継続への課題に対応していくためにも、さらなる普及啓発を図っていく必要があります。

## ■農業生産基盤強化プロジェクト

農業生産基盤強化プロジェクトでは、利用権設定等促進事業や農地利用集積円滑化事業、農地中間管理事業を活用し農地集積を図りつつ、ほ場整備事業等により農業生産基盤の強化に努めました。

「農業生産基盤の強化」、「有害鳥獣駆除の担い手確保」は計画通りに、また「強い農業づくりの推進」については概ね計画通りに進捗するなど、目標達成に向けて着実に取り組むことができましたが、「農地集積の推進」については目標達成に向けた取り組みが遅れています。

耕作放棄地の増加や経営耕地面積の減少傾向が続くなかで、本市産業の特徴の一つである農業の強みを維持していくためにも、農地集積を図っていくことの重要性はより高まっていくと考えられます。着実に進められているほ場整備や施設整備などの農業生産基盤の強化に向けた取り組みを生かし、引き続き農地集積に取り組んでいく必要があります。

農地集積の推進 【進捗状況：遅れている】								
計画期間における具体的な取り組み								
利用権設定等促進事業や農地利用集積円滑化事業、農地中間管理事業を活用し、農業の中心となる経営体に対する農地の集積を図りました。								
関連する目標指標の達成状況								
指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
農地集積率	24.6%	26.3%	24.5%	25.0%	25.5%	26.4%	27.8%	50.0%
成果など								
<p>農地集積率は、目標達成が困難な見込みで、担い手への農地集積が十分に進んでいない状況です。このようななかで、農地集積を促すための制度を農地中間管理事業へとまとめていくなど、分かりやすい制度となるような取り組みを進めました。</p> <p>耕作放棄地の増加や経営耕地面積の減少の傾向が続くなかで、本市産業の強みの一つである農業を発展させるため、ほ場整備事業等による土地改良を進めるとともに、引き続き、農業の中心となる経営体に対する農地集積を図る制度の活用を促していく必要があります。</p>								

**農業生産基盤の強化 【進捗状況：計画どおり】****計画期間における具体的な取り組み**

ほ場整備や用排水施設の整備改修、農道整備により、農業生産性及び農村生活環境を向上させ、農業経営の改善・安定を図りました。

**関連する目標指標の達成状況**

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
農業生産基盤整備面積※（累計）	109ha	111 ha	127 ha	141 ha	146 ha	146 ha	146 ha	146ha

**成果など**

補助金や負担金の支出を通して、ほ場整備による農地の集団化と利用集積を行い、農業生産性を高めるとともに、農道等の整備による農作物運搬の効率向上や農地のたん水被害の未然防止に努めました。

このような取り組みにより、農業生産基盤整備面積は着実に増加し、目標を達成することができました。

今後も引き続き、農業経営の安定化及び効率化に向け、農業生産基盤整備の強化に係る取り組みを継続していく必要があります。

※ ほ場整備事業により行われた区画整理面積

**強い農業づくりの推進****計画期間における具体的な取り組み**

集出荷・貯蔵施設等の共同利用施設の整備等を支援しました。

**成果など**

大葉の集出荷・貯蔵施設の整備に対し、国の補助金を活用して、農産物生産の収益力強化に向けた計画的な取り組みを支援するなどし、産地競争力の強化を図りました。

今後も、農業者の新たな設備投資を促し、生産出荷に関するコストの削減を図り、農業経営の収益力を高めていく取り組みを継続していくことが重要と考えられます。

**有害鳥獣駆除の担い手確保 【進捗状況：計画どおり】****計画期間における具体的な取り組み**

有害鳥獣駆除の担い手を確保するため、地域捕獲団体の設立及び運営に対する支援や狩猟免許取得経費に対する助成を実施しました。

**関連する目標指標の達成状況**

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
地域捕獲団体で駆除活動に参加する人数 <sup>※</sup>	44人	156人	226人	249人	227人	227人	234人	200人

**成果など**

地域捕獲団体の駆除活動参加者数は、狩猟免許取得経費に対する助成や安全講習会の実施等、有害鳥獣駆除の担い手確保を支援することにより目標を達成できています。捕獲団体が立ち上がった地域ではイノシシやハクビシン、ヌートリア等の出没及び被害が減少しました。

野生イノシシによる豚熱感染拡大の防止を図る必要性も高いことから、今後は立ち上がった地域捕獲団体を維持していくための支援を講じていくことなどが必要と考えられます。

※ 地域捕獲団体における有害捕獲許可を受けた人数

## ■人材確保プロジェクト

人材確保プロジェクトでは、首都圏からの UIJ ターンの促進や女性・若者が地元で働くことができる環境づくりに取り組み、企業の雇用確保に努めました。

「人材確保の支援」については、雇用の安定確保に向けたさまざまな取り組みにより目標を達成することができています。一方で、「UIJ ターンの促進」については、中小企業の首都圏での求人活動を支援しましたが、結果として目標達成は非常に困難な状況となっています。

今後人口減少が進み、また、新型コロナウイルス感染症により人々の働き方の意識が大きく変わりつつあるなかで、本市で働きたいと思う人のニーズを拾い上げて雇用の多様性を推進していくことで、地域産業の担い手を確保していくことが必要と考えられます。

UIJ ターンの促進 【進捗状況：遅れている】								
計画期間における具体的な取り組み								
首都圏での合同企業説明会等の出展に要した経費に対して補助したほか、首都圏から市内へ転入した勤労者を雇い入れた事業者へ奨励金を支給しました。								
関連する目標指標の達成状況								
指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
UIJ ターン促進事業の支援件数※（累計）	－	－	2人	5人	7人	8人	8人	250人
成果など								
<p>市内中小企業の多くは首都圏に出向いての採用活動に消極的であり、UIJ ターン促進事業の支援件数は目標達成が困難な状況です。</p> <p>機会を捉えて積極的な PR を行うことにより、市内外の若者に市内中小企業のことを知ってもらい、UIJ ターンにつなげていく取り組みが必要です。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、地方で働くことへの若者の意識も変わっていくことが考えられ、若者のニーズを的確につかみ、企業の採用活動へとつなげていくことが必要と考えられます。</p>								

※ UIJ ターン就業奨励金の支援件数

**人材確保の支援 【進捗状況：計画どおり】****計画期間における具体的な取り組み**

大型運転免許などの取得支援のほか、女性従業員用の更衣室や事業所内保育施設等の整備に係る経費に対する補助の拡充、女性の雇用促進と定着を支援するための事業所向けセミナー及び個別相談を実施し、女性の雇用環境整備に取り組みました。また、若者を呼び込むため、市と雇用主が一体となって新たに雇い入れた若者の奨学金返還金の補助を行いました。

**関連する目標指標の達成状況**

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
大型運転免許等取得経費の支援件数（累計）	－	15人	48人	93人	127人	151人	179人	160人

**成果など**

大型運転免許等取得経費の支援件数は、対象事業者に対し制度の周知が進んでおり、目標を達成しました。このような資格取得に向けた支援や、女性が安心して働くことができる職場環境づくりを通じて、中小企業の人材確保を進めることができました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、雇用環境が大きく変わることも考えられ、多様な働き方に対応できるような人材確保、雇用促進を図っていく必要があります。

## ■人材育成プロジェクト

人材育成プロジェクトでは、ものづくりや農業の分野において、女性や先端農業を学ぶ人材の育成、農業後継者や女性農業者の支援に努めました。

「女性農業者の支援」については目標を達成することができるとともに、「ものづくり人材等の育成」、「先端農業人材育成の支援」、「農業後継者の育成」についても概ね計画通りに進めることができています。

新たな事業の創出、技術革新といった地域経済の活性化につながる取り組みの基礎は人づくりであるといえます。今後も、地域経済の活性化に欠かせない人材を自分たちで育て、生かしていく仕組みや取り組みを継続・強化していくことが不可欠だと考えられます。

### ものづくり人材等の育成 【進捗状況：概ね計画どおり】

#### 計画期間における具体的な取り組み

中小企業人材育成支援研修を実施したほか、女性従業員の国家資格取得等に係る経費に対して補助することで、女性従業員のスキルアップを支援しました。

#### 関連する目標指標の達成状況

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
産業人材育成事業参加者数※	228人	1,589人	3,000人	3,475人	5,097人	5,378人	3,493人	5,300人

#### 成果など

中小企業人材育成支援研修では、新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインでの受講にも対応し、中小企業向けの新型コロナウイルス感染症対策セミナーを実施しました。

中小事業者の技術力を高めるための取り組みは、中小事業者の経営革新、技術革新、新事業の創出につながるものであり、地域経済の活性化には欠かすことができず、引き続き取り組みを進めていく必要があります。一方で、アフターコロナを見据え、急速に変化する事業者のニーズに合致した研修内容とするなど迅速かつ柔軟な対応が求められます。

※ 中小企業技術者研修等の参加者数

**先端農業人材育成の支援**

【進捗状況：概ね計画どおり】

**農業後継者の育成**

**計画期間における具体的な取り組み**

豊橋技術科学大学を中心に産学官金が連携して取り組む植物工場の管理運営に必要な知識や技術の習得といった、先端技術に長けた農業人材の養成講座の実施を支援しました。また、農業に関心のある大学生による市内の農場や農業系企業等でのインターンシップの実施を支援しました。

さらに、農業後継者の経営規模拡大を支援するため、農業経営発展支援事業補助金を創設したほか、農家の後継者対策のセミナーを開催しました。

**関連する目標指標の達成状況**

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
新たに就農した者の数 <sup>※</sup>	16人	28人	17人	41人	40人	40人	23人	43人

**成果など**

新規就農者については、講座やインターンシップ、本市及び本市企業への興味や意識が高まり、地域外出身者の農業法人・農業系企業への就職数の増加へつなげることができ、概ね目標を達成することができています。

今後も、農業後継者セミナーや農業経営発展支援事業、先端農業人材育成事業の認知向上を図ることにより、次世代の農業人材の育成を継続し、地域産業の活性化につなげていく必要があります。

※ 親元就農を含む。

**女性農業者の支援 【進捗状況：計画どおり】****計画期間における具体的な取り組み**

豊橋女性農業団体連絡会を中心に各種研修を実施し、女性農業者のスキルアップを支援しました。

**関連する目標指標の達成状況**

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
女性農業者育成研修事業に参加する人数(累計)	—	—	52人	112人	148人	195人	205人	100人

**成果など**

女性農業者育成研修事業の参加者数は、新たにテーマ研修を実施するなどし、目標を達成しました（2020（令和2）年度は新型コロナウイルス感染症対策のため受講人数を制限して実施）。

今後も、貴重な農業の担い手として、女性農業者に有益な情報収集、連携強化、相互交流の支援を継続していくことにより、女性の経営参画・社会参画を推進するとともに、本市農業の振興に繋げていく必要があります。

## ■グローバル展開プロジェクト

グローバル展開プロジェクトでは、アジア地域への豊橋産農産物や加工食品の販路拡大を推進するとともに、製造業の海外展開を支援するなど、海外販路の拡大に努めました。

「農産物海外販路開拓の推進」では計画どおりに、「加工食品海外販路開拓の推進」、「製造業等の海外展開支援件数」では概ね計画どおりの進捗を図ることができました。

本市産業の競争力を強化していくためにも、海外展開を図っていく取り組みは非常に重要ですが、文化やニーズが多様な海外市場の開拓を継続的に行っていくためには、的確なニーズの把握、意欲ある事業者の掘り起こしなどに努めていく必要があります。

### 農産物海外販路開拓の推進【進捗状況：計画どおり】

#### 計画期間における具体的な取り組み

香港をはじめ、シンガポール、タイ、マレーシアにおいて、試食販売等の店舗プロモーションや現地マーケットの調査、現地バイヤーとの商談などを実施し、農産物の海外販路の開拓・拡大に努めました。

#### 関連する目標指標の達成状況

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
農産物の店頭での重点プロモーション品目数	4品目	5品目	5品目	8品目	7品目	8品目	12品目	8品目

#### 成果など

海外への流通拡大に向け、農産物の店頭での重点プロモーション品目数を充実させたことにより目標を達成することができています。

今後は、農産物の鮮度保持技術を活用した安定したロジスティクスの構築や広域連携による農産物の通年輸出の手法について検討していく必要があります。

**加工食品海外販路開拓の推進【進捗状況：概ね計画どおり】****計画期間における具体的な取り組み**

市内事業者が共同で実施する海外展示会等への出展に対し支援するとともに、香港及びシンガポールの小売店に豊橋産加工食品を販売するコーナーを設置し、市内事業者が取り扱う加工食品の流通量拡大に努めました。

**関連する目標指標の達成状況**

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
「豊橋コーナー」における商品の取扱数※	75点	78点	158点	129点	101点	98点	64点	100点

**成果など**

香港及びシンガポールの小売店での「豊橋コーナー」における商品の取扱数は、事業者の進出意欲の高まりを受け、概ね目標を達成することができています。

一方で、海外市場の動向を踏まえ、より効果が見込まれる国を対象を絞るなど、事業内容の精査を進めることも重要と考えられます。また、補助制度を利用する事業者が固定化してきていることもあり、新たに海外進出にチャレンジする事業者の発掘や事業者の体制整備に対する支援が必要と考えられます。

※ 香港等現地の小売店に設置した「豊橋コーナー」で販売する加工食品等の取扱数

**製造業等の海外展開支援【進捗状況：概ね計画どおり】****計画期間における具体的な取り組み**

中小事業者が海外へ出展する際の小間料、渡航費等を補助しました。

**関連する目標指標の達成状況**

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
中小企業の海外展開支援件数※	4件	3件	5件	4件	7件	7件	0件	10件

**成果など**

中小企業の海外展開支援件数は増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症による影響もあり、目標の達成は困難な状況です。

これを契機として新たな出展方法を検討するなど、引き続き市内企業の販路開拓の意欲を高めていくことが重要と考えられます。

※ 販路開拓支援事業費補助金（海外分）の支援件数

## ■施設園芸技術輸出プロジェクト

施設園芸技術輸出プロジェクトでは、全国有数の強みを有する本市の次世代施設園芸関連ビジネスの海外展開による新たな市場開拓や本市農業のブランド構築に努めました。

本プロジェクトについては、JICA 調査事業が不採択になったことから、具体的な事業の展開に進めることができず、目標を達成することができませんでした。

このプロジェクトで得た教訓を、今後の海外展開を主とした取り組みにおいて有効に生かしていく必要があります。

### 先端技術の輸出促進【進捗状況：遅れている】

#### 計画期間における具体的な取り組み

次世代施設園芸関連ビジネスの海外展開による新たな市場における売上の増加と、それに伴う地域企業への波及効果や本市からの農産物輸出が困難な遠隔地における本市農業のブランド構築効果などを見込み、現地にて調査を実施しました。

#### 関連する目標指標の達成状況

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
先端技術の輸出件数（累計）	—	—	—	—	—	—	—	2件

#### 成果など

現地調査に基づき、JICA 調査事業に申請したものの不採択となり、先端技術の輸出につなげることはできず、目標を達成することはできませんでした。

現地ニーズに対応するため、現地の実情に合わせた製品改良の実施や、現地でのビジネス展開に向け、海外でのビジネスや営農に従事できる人材の確保が十分でなかったことが要因と考えられます。また、現地事業所にスタッフを派遣する企業の負担軽減や現地企業等とのパートナーシップ構築に対する支援が必要であったと考えられます。

## ■誘客・誘致プロジェクト

誘客・誘致プロジェクトでは、インバウンドの推進に向けたプロモーションや手筒花火等の観光資源の魅力向上に取り組み、本市への誘客・誘致に努めました。

「インバウンドの推進」、「観光資源の魅力向上」について、概ね計画どおりに進捗を図ることができましたが、新型コロナウイルス感染症により、生活様式が大きく変化しており、それとともに今後は旅行のスタイルやニーズも今までとは違ったものになっていくと考えられます。

こうしたことから、従前の手法にとらわれることなく、大きく変わった観光客のニーズを的確に把握し、本市への誘客・誘致の新たなかたちを作り上げていく必要があります。

## インバウンドの推進【進捗状況：概ね計画どおり】

## 計画期間における具体的な取り組み

インバウンド受入れの取り組みとして、情報交換や研究の場となるインバウンド推進研究会の設立や、商店街及び個店の無料 Wi-Fi スポットの整備、案内看板の多言語化、外国語メニュー作成等への支援に取り組みました。

また、炎の祭典招へいツアーや外国人向け手筒花火特別放揚等のインバウンドを呼び込むためのプロモーション活動に取り組んだほか、新型コロナウイルス感染症の影響が出てからは、収束後の旅行時に本市を選んでもらえるよう、現地での PR 活動に取り組みました。

## 関連する目標指標の達成状況

指標名	基準値	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標値
市内宿泊施設宿泊者数	611,470人	655,509人	695,104人	726,586人	805,498人	758,996人	367,646人	820,000人
商店街等無料 Wi-Fi スポット整備の支援件数(累計)	-	-	1件	1件	1件	1件	1件	50件

## 成果など

インバウンドの推進や魅力ある観光資源の PR により、市内宿泊施設宿泊者数は概ね目標を達成しています。その中でも、外国人宿泊者数は順調に増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が出てからは、大きく減少しており、今後の見通しを立てることがなかなか困難な状況です。また、商店街等無料 Wi-Fi スポット整備の支援件数は、目標の達成は困難な見込みです。

今後は、観光のあり方が大きく変わることが想定され、海外からの誘客方法についても改めて検討し直すことが求められています。そのためには、誘客から消費につながる仕掛けや、事業者ニーズの把握や利用しやすい制度設計についても検討していく必要があります。

## 観光資源の魅力向上

### 計画期間における具体的な取り組み

女性職員有志の企画による三河地域伝統の帆前掛けや刺子のグッズを製作しました。また、手筒花火体験パークの整備や吉田城鉄櫓の展示物の多言語化や御城印の販売などを行いました。また、フェイスブックやInstagram広告を利用した広報に取り組みました。

### 成果など

本市に存在するさまざまな観光資源を掘り起こし、ターゲットを絞ったプロモーションを実施することで、まだ十分に知られていない本市の魅力を発信し、本市への誘客を促すための布石を打つことができました。

## 参考. 新型コロナウイルス感染症で影響を受けた事業者に対する主な取り組み

本市のコロナ禍における産業支援は、企業の事業継続と雇用確保が最も重要であると考え、2020（令和2）年度は、特に中小企業を対象として国や県の支援策の活用を促すとともに、事業者の実情の把握に努め、国や県の行う支援では対応しきれない部分を救済するため、市独自の事業者の資金繰りや雇用継続の支援策を中心に講じてきました。

区分	事業名	内容	予算執行額 (千円)	申請件数
資金繰り	信用保証料補助金	豊橋市経営安定資金や愛知県経済環境適応資金利用者等への信用保証料を補助	157,329	756
	経営安定資金特別対策補助金	豊橋市経営安定資金の利用者に対し、融資額の1%を補助	5,819	84
雇用	雇用調整助成金申請等手数料補助金	雇用調整助成金申請に係る経費に対する補助	15,838	211
	雇用維持助成金	雇用調整助成金の上乗せ補助	35,456	68
事業継続	中小企業賃料補助金	賃料等の一部に対する補助	90,890	658
	事業継続応援賃料補助金	賃料等の一部に対する補助	165,511	737
	新型コロナウイルス感染症対策協力金、事務費	愛知県の休業要請等の対象から漏れた事業者への協力金	102,250	409
消費喚起	豊橋エールチケット補助金	プレミアム付チケットに係るプレミアム金額を実行委員会と折半して負担。6,000円/冊（1,200円5枚綴）を5,000円で販売。プレミアム率20% （第1弾）販売：50,000冊、販売・使用期間：2020.7.27～9.30、参加店舗：262店 （第2弾）販売：62,000冊、販売・使用期間：2020.12.11～2021.2.28、参加店舗：261店	41,584	—
	観光支援事業費	宿泊施設と連携した観光需要の増進を目的として、GoTo トラベルキャンペーンに伴うナイト Zoo 及びエールロケ地巡り無料シャトルバスを運行	1,841	—

感染症対策	イベント感染症対策 促進事業補助金	イベント関連事業者が、参加者・観 客等に直接供するパーティション や体温測定システム等、感染防止対 策に必要となる物品の購入などに 対する補助	1,359	4
	がんばる個店緊急支 援補助金	店内の消費活動のための飛沫感染 防止パネルや繰り返し使える感染 症対策備品購入などに対する補助	16,501	223
	自動車運転代行業者 感染症対策促進事業 補助金	運転代行業者の車内アルコール 消毒やマスク着用等の3密対策の取 組に対する補助	251	6
業態転換	がんばる飲食店緊急 支援補助金	飲食店が新たな取り組みとともに、 消費活動を店外へ移すために必要 な経費の補助 (ハード事業) テイクアウト、デリ バリーなどのための店舗改修費、キ ッチンカー購入費など (ソフト事業) テイクアウトなど容 器代や広告費など	44,637	368